

県オリジナルカラー品種の組織培養苗の移植を 9月に行えば充実した小球を形成できる

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

花き-カラー-栽培

2 担当者名

大竹真紀、長浜友佳

3 要旨

県オリジナルカラー品種では、組織培養で増殖した苗をセルトレイに移植して小球を形成させるため、球根養成栽培に適する小球生産の工程を明らかにする必要がある（図1）。小球の形成は、9月移植が11月移植より充実したものとなり、球根養成後の球根も肥大する。

- (1) 組織培養苗の移植は、9月移植では11月移植より大きな小球を形成できる（表1）。
- (2) 球根養成栽培では、各品種とも9月移植の小球は11月移植より萌芽が2~6週間早まり、最大葉長も大きかった。また、球根養成後の球根重も大きい（表2）。
- (3) 球根養成栽培は、猪苗代町（標高526m）において行った。

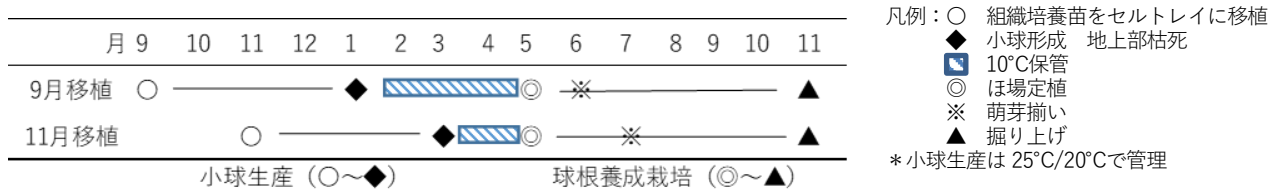


図1 カラー種苗生産の流れ

表1 小球生産での小球重の肥大の違い

品種名	培養苗 ¹⁾ 移植時期	小球重 ²⁾ (g)
はにかみ	9月	2.9
	11月	2.0
ミルキー	9月	2.5
	11月	1.1
キピタン	9月	2.1
	11月	0.8

小球生産：品種開発科 25°C/20°C設定
1)組織培養で増殖した苗
2)2021年5月7日調査

表2 球根養成栽培における萌芽までの日数と生育および球根の肥大

品種名	培養苗 移植時期	定植時の 小球重 ¹⁾ (g)	株の生育			掘り上げ 球根重 ⁴⁾ (g)
			萌芽80%到達日数 ²⁾ (日)	最大葉長 ³⁾ (cm)		
はにかみ	9月	2.3	63	51	36	
	11月	2.0	82	38	16	
ミルキー	9月	2.1	50	53	39	
	11月	1.1	96	32	16	
キピタン	9月	1.7	84	32	16	
	11月	0.8	98	26	12	

試験場所：猪苗代町。2021年5月10日に小球を定植。
栽培方法：切り花栽培に準じ、45%遮光パイプハウスに株間10cm×条間20cm、2条千鳥植え。
1)9月移植小球は11月移植のものに合わせるため2g程度のもので選んで供試した。
2)定植日から萌芽率80%に達した日数。3)10月21日調査。4)11月9日掘り上げ。12月9日、10日調査。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3年度~令和7年度
- (2) 研究課題名 競争力の強化に向けた福島県オリジナル品種の開発〔国庫(福島県農林水産事業再生総合事業費)〕

5 主な参考文献・資料 なし